

JPX日経インデックス400・コアプラスの運用状況

JPX日経インデックス400・コアプラス

追加型投信／国内／株式

2016年5月27日

3月期決算企業の2015年度決算発表が概ね終了しました。当ファンドでは、決算内容の精査などをふまえ、2016年度以降も業績および自己資本利益率（ROE）の改善が続くと見込まれる銘柄、株主還元積極的に取り組んでいる銘柄などを組み入れることによってパフォーマンスの向上に努めております。

2016年度業績（会社予想）は2期連続の減益となる見通し

- 3月期決算企業の2015年度（2016年3月期）の決算発表が概ね出揃いました。TOPIX500採用銘柄の2015年度実績は全産業で1.1%の経常減益となりました。2016年度（会社予想）につきましても全産業で0.6%経常減益予想となり、2期連続で減益となる見通しです（図表1）。
- 2016年度（2017年3月期）の業績（会社予想）につきましては、情報・通信業や小売業など主に国内で事業を展開している業種は増益基調を維持する見通しです。一方、円安の恩恵を享受してきたと考えられる輸送用機器などが年明け以降の円高進行の影響などで減益となる見通しです。

（図表1）3月期決算企業の経常利益増減率

（2016年5月20日時点、前期比（%））

	16/3期 実績	17/3期 会社予想
全産業	-1.1	-0.6
製造業	-2.1	-0.7
非製造業	-0.3	-0.5

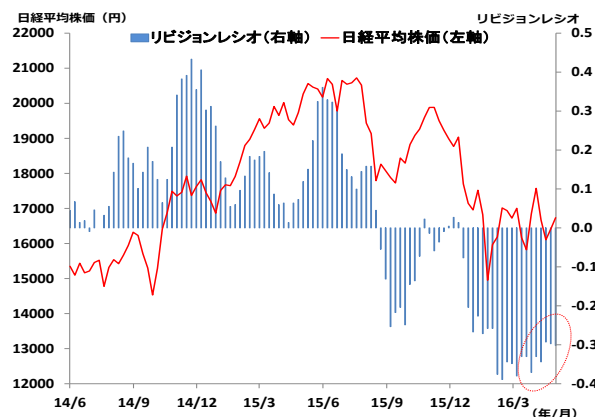
（注）TOPIX500採用銘柄のうち、3月期決算の414社の集計値
 （注）経常利益に代え、国際会計基準採用企業は税引前利益を、大手総合商社5社は当期純利益をそれぞれ使用
 （出所）Bloombergデータより岡三アセットマネジメント作成

リビジョンレシオは足元で改善の動き

- 企業の決算発表が概ね終了し、今後は証券業界の企業アナリストによる業績予想の修正が進む見通しです。企業アナリストによる業績予想の修正動向が反映されたリビジョンレシオと株価の間には、相関関係があると考えられます（図表2）。
- 2016年1月以降、リビジョンレシオのマイナス幅が拡大する中で、国内株式市場も下落しました。しかし、足元でリビジョンレシオは改善の動きが見られます。企業アナリストによる業績予想の下方修正はピークを越え、株式市場は持ち直す展開になると期待されます。

（注）リビジョンレシオとは、（企業アナリストの予想が上方修正された銘柄数－下方修正された銘柄数）/調査対象銘柄数で算出され、直近1か月の数値を毎週更新したものです。

（図表2）リビジョンレシオと日経平均株価の推移



（期間）2014年6月20日～2016年5月20日（週次）
 （出所）Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

ROEの改善、株主還元に対する姿勢に着目し、銘柄選別

- 当ファンドでは、幅広い業種の中から高い競争力などを背景に、独力で業績成長およびROE上昇を達成すると見込まれる銘柄などを選別し、組入れを行っております。
- 5月につきましては、決算発表の内容を精査し、2016年度も増配の見通しを示した日産自動車の買付などを行う一方、業績改善の遅れが懸念されるミネベアの組入比率引き下げなどを行いました（図表3）。

（図表3）5月の主な売買銘柄

主な買付銘柄		主な売却銘柄	
銘柄名	業種	銘柄名	業種
日産自動車	輸送用機器	ミネベア	電気機器
タカラレーベン	不動産業	オリエンタルランド	サービス業
あおぞら銀行	銀行業	参天製薬	医薬品
スタートゥーデイ	小売業	小野薬品工業	医薬品
ダイキン工業	機械	オービック	情報・通信業

（期間）2016年5月2日～2016年5月24日
 ※上記は個別銘柄の売却、購入等の行為を推奨するものではありません。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

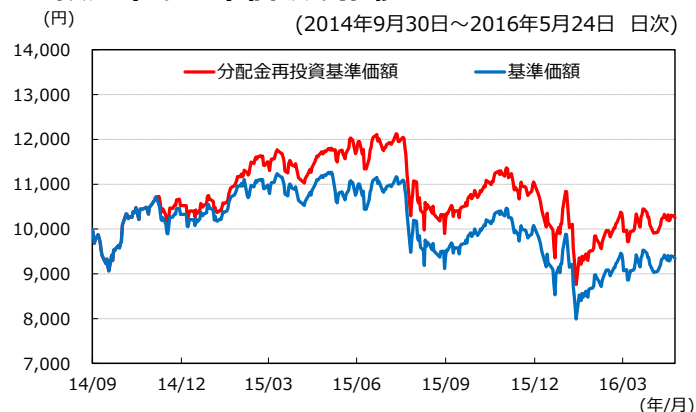
■本資料は、「JPX日経インデックス400・コアプラス」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

JPX日経インデックス400・コアプラス
追加型投信／国内／株式

運用状況

(作成基準日：2016年5月24日)

■ 設定来の基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本です。
※分配金再投資基準価額とは、設定来の分配金(税引前)を当該分配金(税引前)が支払われた決算日の基準価額で再投資したものと計算した基準価額です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

■ ファンドの状況

基準価額	9,344円
純資産総額	8,597,465,928円
株式組入比率	95.2%
組入銘柄数	58銘柄

※基準価額は1万口当たりです。

■ 分配金実績

決算期	分配金 (円)
第1期 (2014年12月8日)	200
第2期 (2015年3月9日)	300
第3期 (2015年6月8日)	400
第4期 (2015年9月7日)	0
第5期 (2015年12月7日)	100
第6期 (2016年3月7日)	0

※分配金は1万口当たり(税引前)です。運用状況等によっては分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。

■ 組入上位10業種

順位	業種名	構成比
1	情報・通信業	17.6 %
2	サービス業	13.0 %
3	医薬品	10.7 %
4	化学	9.9 %
5	不動産業	9.3 %
6	小売業	6.7 %
7	機械	4.9 %
8	建設業	4.5 %
9	食料品	3.9 %
10	銀行業	3.4 %

※構成比は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

■ 組入上位20銘柄

順位	銘柄名	構成比	順位	銘柄名	構成比
1	塩野義製薬	3.9 %	11	大和ハウス工業	2.8 %
2	リロ・ホールディング	3.5 %	12	ニフコ	2.6 %
3	日産自動車	3.3 %	13	スターツコーポレーション	2.6 %
4	日産化学工業	3.1 %	14	KDDI	2.3 %
5	デジタルガレージ	3.1 %	15	日本電信電話	2.3 %
6	タカラレーベン	3.0 %	16	エムスリー	2.2 %
7	あおぞら銀行	2.9 %	17	JCRファーマ	2.1 %
8	ダイキン工業	2.9 %	18	いちごグループホールディングス	2.1 %
9	花王	2.9 %	19	協和発酵キリン	2.1 %
10	明治ホールディングス	2.8 %	20	ニトリホールディングス	2.1 %

※構成比は当ファンドの純資産総額に対する比率です。

JPX日経インデックス400・コアプラス ファンドの特色

- 株主資本の効率的な活用、株主利益の最大化等が期待される日本の成長企業の株式に投資を行います。
- 投資にあたっては、JPX日経インデックス400構成銘柄を中心に、企業の成長ポテンシャル、自己資本利益率（ROE）の水準・変化・方向性、配当利回り、配当政策等に着眼し、投資信託財産の成長を図ります。なお、JPX日経インデックス400構成銘柄の投資比率は投資信託財産の純資産総額に対して概ね70%程度とします。
- 銘柄の選定にあたっては、ボトムアップ・アプローチを基本とします。
- 株式の組入比率は高位を保つことを基本とします。
- 株式以外の資産の投資割合は、原則として投資信託財産総額の50%以下とします。



(作成：エクイティ運用部)

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は、「JPX日経インデックス400・コアプラス」に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はおお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。



JPX日経インデックス400・コアプラス
追加型投信／国内／株式

JPX日経インデックス400・コアプラスに関する留意事項

【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社

岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、国内の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「信用リスク」があります。
- ※基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

＜お客様が直接的に負担する費用＞

- 購入時
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.24%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

＜お客様が信託財産で間接的に負担する費用＞

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.674%（税抜1.55%）
 - その他費用・手数料
監査費用：純資産総額×年率0.0108%（税抜0.01%）
 - 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を信託財産でご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

販売会社

(受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれております。)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商 品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○		○
岡三オンライン証券株式会社	関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
飯塚中川証券株式会社	福岡財務支局長(金商)第1号	○			
永和証券株式会社	近畿財務局長(金商)第5号	○			
株式会社SBI証券	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
香川証券株式会社	四国財務局長(金商)第3号	○			
極東証券株式会社	関東財務局長(金商)第65号	○			○
寿証券株式会社	東海財務局長(金商)第7号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
荘内証券株式会社	東北財務局長(金商)第1号	○			
益茂証券株式会社	北陸財務局長(金商)第12号	○		○	
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
(登録金融機関)					
株式会社西京銀行	中国財務局長(登金)第7号	○			

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214** (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)